

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

| | | | | | |
|--------|---|-----|----------------|---------|---------|
| 政策No. | 2 | 政策名 | ともに生き支えあうまちの形成 | 施策主管課 | 市民活動支援課 |
| 施策No. | 8 | 施策名 | 多様性社会の構築 | 施策主管課長名 | 時田 啓 |
| 施策関連課名 | | | 政策推進課 | | |

1 施策の目的と指標

| | | | | | | | |
|-------------------------------|---|----------------------|---------------------------------|--|----|---|--|
| (1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等 | 市民 | (3)対象指標(対象の大きさを表す指標) | A | 人口 | 単位 | 人 | |
| | | | B | | | | |
| (2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか) | 年齢・性別・文化などに関係なく互いに尊重して暮らすことができる | (4)成果指標(意図の達成度を表す指標) | ① | 職場や地域で男女差別を感じている市民の割合 | 単位 | % | |
| | | | ② | 審議会等における女性委員比率 | % | | |
| 成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由) | ① 男女共同参画の浸透状況を示す/性別に関係なく互いに尊重されている、職場や地域での男女差別はなくなり、男女差別を感じる市民が減っていくので、成果指標とした。 ② 市政への女性の参画状況を示す/市の審議会等の委員は男性が多いのが現状である。多様性が尊重されたまちづくりを行うためには、各種計画の策定や進行管理などを行う審議会等の男女比率が同程度に近づき、男女双方の意見が反映されるべきなので、成果指標とした。 ③ バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度を示す/多様性が尊重されるためには、日常生活や社会生活におけるあらゆる障壁を取り除き(バリアフリー)、すべての人が気持ちよく使えるよう生活環境を計画する(ユニバーサルデザイン)ことへの理解が重要であるため、成果指標とした。前期においては「障がい者福祉の充実」の成果指標であったが、障がいの有無だけでなく年齢、性別、国籍、人種などにかかわらず様々な人を対象とするため、「多様性社会の推進」の成果指標とした。 ④ 多文化共生社会の認知度を示す/市内にも外国人が増えている中、多様性が尊重されるためには「多文化共生社会」を市民が知る必要があるため、成果指標とした。※多文化共生社会・・・国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、ともに生きていく社会。 | ③ | バリアフリーやユニバーサルデザインの意味を知っている市民の割合 | % | | | |
| | | ④ | 多文化共生社会を知っている市民の割合 | % | | | |
| | | 成果指標の測定方法 | ① | 市民アンケート『職場や地域で男女差別を感じていますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合<低下したほうが成果向上> | | | |
| | | (どのように実績値を把握するか) | ② | 「法律・条例等により設置されている審議会等一覧」の女性委員数÷総委員数×100 | | | |
| | | | ③ | 市民アンケート『「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の意味をご存知ですか』において、「知っている」と回答した市民の割合 | | | |
| | | | ④ | 市民アンケート『「多文化共生社会」とはどのような社会かご存知ですか』において、「知っている」と回答した市民の割合 | | | |

2 指標等の推移

| 指標名 | 単位 | 数値区分 | 前期基本計画 | | | | | 後期基本計画 | | | | | |
|--------------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| | | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| 対象指標 A 人口 | 人 | 見込み値 | | | | | 71,089 | 70,568 | 70,041 | 69,521 | 68,996 | 68,430 | |
| | | 実績値 | 72,305 | 72,018 | 71,880 | 71,602 | 71,370 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 対象指標 B | | 見込み値 | | | | | | | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 対象指標 C | | 見込み値 | | | | | | | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 成果指標 ① | % | 目標値 | 19.0 | 18.0 | 17.0 | 16.0 | 15.0 | 25.0 | 23.0 | 21.0 | 19.0 | 15.0 | |
| | | 実績値 | 27.5 | 23.5 | 25.1 | 26.5 | 22.5 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 成果指標 ② | % | 目標値 | 38.4 | 38.8 | 39.2 | 39.6 | 40.0 | 37.5 | 38.0 | 38.5 | 39.0 | 40.0 | |
| | | 実績値 | 34.5 | 34.3 | 36.1 | 36.2 | 36.2 | | | | | | |
| 成果指標 ③ | % | 目標値 | 62.0 | 64.0 | 66.0 | 68.0 | 70.0 | 54.0 | 57.0 | 60.0 | 62.0 | 65.0 | |
| | | 実績値 | 57.0 | 50.4 | 57.0 | 50.6 | 53.5 | | | | | | |
| 成果指標 ④ | % | 目標値 | - | - | - | - | - | 15.0 | 17.5 | 20.0 | 22.5 | 25.0 | |
| | | 実績値 | - | - | - | 12.8 | 13.7 | | | | | | |

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

- 前期最終年度の目標値に達成しておらず実績値は横ばいのため、後期の目標値は実績値から最終的に前期の目標値になるよう設定する。
- 県の第4次男女共同参画計画における審議会等委員への女性登用率が目標値40.0%(H33)となっているのでそれと同様とする。
- 前期では「障害者福祉の充実」の成果指標だが、平成27年度以降60.0%に達しておらず、目標値(70.0%)から10ポイント以上低い実績値が続いているため、まず3年目の令和4年度に前期基本計画の現況値(平成25年度・60.8%)と同水準に戻し、そこからさらに5ポイント増の65.0%を目標とした。
- 後期で新しい成果指標となった。目標設定については、現況値(平成30年度・12.8%)では約1割にしか認識されていないところを、令和2年度には4人に1人が「知っている」と回答することを旨とし、25.0%とした。

3 施策の役割分担

| | |
|---|---|
| ①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと) | ②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) |
| 男女が互いにその人権を尊重する。偏見を持たない。差別をしない。性別に関わりなく個性と能力を発揮していく。 | ・男性中心型労働慣行の見直しや多様な働き方の普及、人事の見直し。男女平等意識を高める。また、仕事と子育て等を両立できる環境整備(子育て支援)を行う。啓発・周知する。 ・すべての人が使いやすいよう公共施設のバリアフリー化を進める。 ・窓口対応や証明書の発行などにあたっては、可能な限り市民の多様性に配慮する。 |

4 施策の状況変化・住民意見等

| | |
|--|---|
| ①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R3年度末を見越して)どのように変化するか?) | ②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?) |
| LGBTという性別を超えた価値判断が社会の中で取りざたされている。社会が高度化するに連れ、性別・人権を取り巻く基準・判断が変化していく。争いのない平和な社会が継続していくか、国際的紛争が発生するか、可能性はどちらもとも言えない。男・女、日本人・外国人という比較の前に、人として個人を尊重するという考えが必要な時代となる。 | その時代に合った判断ができるよう意識改革の必要がある。そのための知識・教養を高めていく必要がある。また、多様性を認め合う社会を構築していくため、他の自治体に先駆けて何らかの対策を取るべきである。 |

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

| 区分 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 |
|----------------|--------|--------|-----|-----|-----|
| 関連事業本数 | 13 | | | | |
| 関連事業予算額(単位:千円) | 20,254 | | | | |
| (予算額の内訳) | 国庫支出金 | 0 | | | |
| | 県支出金 | 0 | | | |
| | 地方債 | 0 | | | |
| | その他 | 10,900 | | | |
| | 一般財源 | 9,354 | | | |

| | | |
|-------------------------------------|----------------------|---|
| (1) 目標達成度(目標値との比較) | | ※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など) |
| <input type="checkbox"/> | 目標より高い実績値だった | <p>成果指標4つの内、3つは前期の目標値があり、3つの指標とも実績値が目標値を下回った。成果指標①については、男女の性別に関わりなく仕事をしていくと、男性中心型労働慣行について、まだまだ潜在的な差別意識が残っている結果ではないかと考えられる。</p> <p>成果指標③は、前期では「障害者福祉の充実」の成果指標だが、認知度が上がらず、目標値に達していない。</p> <p>成果指標②については、実績値は昨年と同様であり目標値には達していない。まだまだ極端な女性委員の登用増は見込めない状態だと考えられる。</p> |
| <input type="checkbox"/> | どちらかといえば目標より高い実績値だった | |
| <input type="checkbox"/> | 目標どおりの実績値だった | |
| <input type="checkbox"/> | どちらかといえば目標より低い実績値だった | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 目標より低い実績値だった | |
| (2) 時系列比較(どのように変化してきたか) | | ※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など) |
| <input type="checkbox"/> | 成果がかなり向上した | <p>成果指標4つとも過去の実績値と比較して、ほぼ横ばいの状態である。</p> <p>成果指標①については、男女の性別に関わりなく仕事をしていくと、男性中心型労働慣行について、まだまだ潜在的な差別意識が残っている結果ではないかと考えられる。</p> <p>成果指標③は、実績値にばらつきがあり、なかなか浸透していない状況である。</p> <p>成果指標②については、実績値は若干上がってはいるが、まだまだ極端な女性委員の登用増は見込めない状態だと考えられる。</p> |
| <input type="checkbox"/> | 成果がどちらかといえば向上した | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) | |
| <input type="checkbox"/> | 成果がどちらかといえば低下した | |
| <input type="checkbox"/> | 成果がかなり低下した | |
| (3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など) | | ※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など) |
| <input type="checkbox"/> | かなり高い成果水準である | <p>審議会等への女性委員の登用状況は、県は目標値40.0%に対して実績値36.5%である。本市は36.2%であり、県と比較するとほぼ同水準である。</p> <p>また、近隣市では、甲斐市が24.1%、韮崎市が31.2%、中央市が25.2%となっている。本市は近隣市と比較すると高い数値となっている。</p> |
| <input checked="" type="checkbox"/> | どちらかといえば高い成果水準である | |
| <input type="checkbox"/> | ほぼ同水準である | |
| <input type="checkbox"/> | どちらかといえば低い成果水準である | |
| <input type="checkbox"/> | かなり低い成果水準である | |

7 基本計画期間における施策方針

| |
|---|
| (1) 施策の基本方針 |
| <p>家庭・地域社会・職場それぞれの環境の中で男女共同参画を推進する。</p> <p>互いを尊重しあい、共感しあえる社会(多様性の社会)を構築するため、意識変化のための啓発と周知拡大を推進する。</p> |

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R2年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R3年度)の方針

| 基本事業 | 今年度(R2)の取組(事務事業)状況及び今後の課題 | 次年度(R3)の方針 |
|---------------------|--|---|
| 1 男女共同参画の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニープランにある41の数値目標に基づき、その目標達成に向け推進会議で実情に合った取り組みを行う。 ・ハーモニープラン推進会議委員を中心に人材育成を行う。 ・市民への意識啓発が重要である。性別に関わらず一人ひとりが男女共同参画について考えてもらえるように、推進会議での取り組みを市ホームページやフェイスブック等で発信していく。 | <p>家庭・職場・地域での男女差別の解消、性別に関係なく誰もが自由に意見が言える、互いに尊重する社会を目指す。</p> <p>行政機関・審議会等についても男女共同参画のもと、女性を積極的に登用していく。</p> |
| 2 多様性社会の構築に向けた周知・啓発 | <p>多様性社会についての研修や、多様性社会の構築に向けた調査等を実施したいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できていない。</p> | <p>多様性社会については正しい理解が必要なため、研修会を開催する。</p> <p>加えて、身近なところから周知・啓発や対応策を講じる。</p> |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |